

# 「令和4年度 函館市医療・介護連携多職種研修会」 介護関係者向け研修会（動画公開）【質問と回答】

テーマ：『食べるということ～おいしく食べ続けるために～』

講 師：函館稜北病院訪問リハビリテーション稜北

言語聴覚士主任 宍戸 加奈美 様

## 質問と回答

①質問：【背中のタッピングは適切なかどうか？】

回答：気道内に異物（痰や食物など）が入ると、気道から上に出そうと反射的に咳嗽（がいそう・むせること）が起り、体を守ります。気道から上に出そうとしている時に背中をたたくと、ますます異物が奥へ落ち込んでしまう可能性があります。むせた時は、すこし前傾姿勢をとり、「しっかり咳で出しましょう」と声掛けとともにティッシュなどを差出し、しっかり咳をしてもらいましょう。その後、少し落ち着かれたらゆっくり呼吸を整えてもらうとより良いと思います。

②質問：【ベッド上で水分・食事介助する際の適切な角度、姿勢についてお聞きしたいです。】

回答：ベッドのリクライニングの角度は、個人によって適切な角度が異なるかと思います。ご本人の安楽な姿勢、嚥下面などを考慮し、相談して検討していくことが大切です。一般的には体調や身体機能により座位姿勢がとれない場合は、①ベッドの背もたれを45度以上の角度に起こす（45度～60度程度がベッド上の姿勢としては楽ことが多いかもしれません。もちろんそれ以上の角度でも大丈夫ですが、ご本人が苦しくなく食べやすい自然な姿勢がよいと思います。）②頭の後ろにクッションや枕を置き、首がやや曲がる（頸が上がりすぎず、視線の位置がまっすぐになる）ようにしておくと、ムセや誤嚥防止につながるかと思います。摂食嚥下障害のある方の中には、リハビリ場面で30度程度の傾斜で頸部前屈をして摂取することもあります。利点としては、口唇からこぼれにくい・食べ物の口腔内、咽頭への送り込みに有利・誤嚥と咽頭残留防止に効果があることが挙げられます。

ベッドをギャッジアップして食事介助する際によくみられる事として、姿勢が崩れて体が沈んでしまっている・頸が上がってしまっている場面をみかけることもあるかと思います。体をしっかりベッドヘッド（頭の方向）に近い位置まであげ、腰の位置をしっかり確認し、足のリクライニングを軽く上げて沈まない・下がらないように調整してから頭側のベッドをあげていくと、姿勢が崩れにくいかと思います。お試しください。